工夫雙紙

六

W442
N13

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

工夫雙紙巻六

桑名　加治啓次郎平胤禎輯

一大友家の甲斐の字雲といへるは、あまたの遊りの去年天文九年十二月が病を受けて四月終に死りけり、既に候終の枕もとへ子どもをちかへ寄せ我まさに死んとす云々、無ものとして一生の御恩へ、我乱世に生れ若かりし時は勇猛の心もつたる力を出して獲んでものを思ひて命惜しとも思はずかしし、壮年が後は勇氣たりしなれども、

13.7.24 国会図
01W50736
国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13
ガラス使用

のごとくして仁俊才智人に優れ利口なる事なのそむとはいえども死の前には智深菩薩あまたも仁俊の心に従うべきにあらず仁俊なきのちは長男法隆次男は法隆に従うべきなり然るに法隆幼稚にして惟茂清幸机辰岡根などの無根をもって数々申の勇気なく二男

仮ま祁諸に延ぶるなるを以て時々礼世なるとは
兵法を捨ずしていふにはつらぬ此事をはなして軍をせ
ハ諸中を始て勇猛を為ゆまはへ[illegible]ん時先鋒
後厳して敵をとらひしうん時ハ淮陰治院大将なる
一し敵にうこまれ[illegible]ハ敵と對陣し或ハそしめて
進し敵を討伐しかまる或ハ味方小勢にて大敵に
向ふ打撫ハ諸に[illegible]ハ利[illegible]時ハ澄晴
院久[illegible]をなし　張蹟惟蹟ハ[illegible]の大
[illegible]して　阿蘇の城に[illegible]　三舟[illegible]志多[illegible]

ゆ郷くの小城にて[illegible]粮を運送しまゐ此軍用に
事ゆ[illegible]力を[illegible]　[illegible]家僕此恨
をうまれ　困窮させ下民の小家迄も能く心を[illegible]
[illegible]家[illegible]仁義を[illegible]ハ父かと此送[illegible]を
[illegible]大友[illegible]此敵となる事　[illegible]仁義此[illegible]ハ君[illegible]の[illegible]
[illegible]て　[illegible]二心をいふ[illegible]ハ君[illegible]ハ不忠の
[illegible]此[illegible]ハ[illegible]此罪を終ハ家を[illegible]
一し我元来阿蘇の家[illegible]を大友[illegible]恩地を[illegible]
[illegible]を起し[illegible]を立しといへとも未國恩を[illegible]命

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13
ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

何の用ゐて此処、夜中に来るやと夢を見ず
して申さる園恵、罷て申れるは秋成川の子細を
相盗もあらば此奥方に御前申は女の間に密通仕れば
約諾を遂ぬれば只々彼方へ忍び入申まで候と以ふ皆州
もと今姫宮浦刀の人なれば其所を切捨んと思ひ入れる
が此詞より罷を包兩ば詞深しく申故に右兼筆
なりが健宮と思ひ入れば思案あり申さるは汝大小
はさしあるやと尋ねるに指て此所は其刀を嫌の
外に指重弱を踏て嫌へ少しく申は猶ほ此はさし事を

此はとも若此所を取り其に右事指を強くなり申は
此上は此仕重をお待ち其を取り申して居たりしと
嫌がて何縄をうち居られ嫌此相を志げり付と重しく後に
少しも身を顧さずして仕重を行内庭に於ける嫌が庭
へ出見たりしにさしらつむき居たり皆が夢を行ら
ら事汝如何心得しそ只々お捨ひ今惜きやらんと長
刀を振ひしかしとも彼男強く氣なく此目に着て大
悪の事あらば申あらば此上は此仕重に覚悟仕事まで
此事に里させらるべきとの事此上もなきお聖難を

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13
ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

同就中宮為人柔順
人心依中宮為之
用捨之意
神の冥加ともいふべきものとぞいはれける

好漢憐漢といふ古語のごとく実なり
なりけりといふ不可思議の事ども

一元禄年中松前会田遠江守と二男源左衛門と
互に不和なり 仲牟田武右衛門
ことども成 何之ノ比か還俗して

く雷落ちて 仲牟田が家
為めに 仲牟田武右衛門
仲牟田が 仲牟田武右衛門
御前へ 仲牟田武右衛門
仲牟田武右衛門
如く 仲牟田武右衛門
仲牟田武右衛門
仲牟田武右衛門

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

追落し本当路を知らさはけれ先年より作り
れ[illegible]先は[illegible]此[illegible]として黄金[illegible]
う[illegible]能[illegible]は[illegible]伝て池[illegible]芳の[illegible]
此人[illegible]は[illegible]目[illegible]とて[illegible]一体同心
し[illegible]或は[illegible]人等[illegible]大[illegible]一揆調[illegible]
[illegible]は右三人の[illegible]さ[illegible]押[illegible]
[illegible]を[illegible]追拂と[illegible]山村[illegible]
さあらば[illegible]我[illegible]追[illegible]
偽けるを文[illegible]一揆の企[illegible]押

[illegible]追[illegible]して首数多討[illegible]は本当路[illegible]
[illegible]と書て本多[illegible]と[illegible]判を[illegible]村
[illegible]傷いさ判を出し[illegible]村[illegible]て此文[illegible]
本当[illegible]
[illegible]は[illegible]
[illegible]は一定[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

の須迄を要ハ古宮殿宮味方ハ此きそひて加ふ又荒
れを見えてハ有其事明る故を返拂をねハ子付と云ふ
を此事の者ともに知らせ底後一味さへ深く望一能事
と知らに判を出へ如へと進ふ中にて是も寄ふ
も知とて判形を書れハ能拂を急ぎ返事
三日にして此陣所に參ひ出し拂言を持ち出れ
依渡す故て拔落せられる程子 神君ともに
清盛にて三人の者ともあく本多所を知らさ筆
手柄ハ小の連に雀長吹の事ともに下あり村山村ハ備

本多ハ一撰を得し紙小族を作りて三百余人留し
進んで押出し石川が下人共ともに三百疋ニ付変さ
ふしを押寄く矢鉄砲を放し攻かゝり多く欲ハ織の
事にて同意し味方ハ打草一味ハ一撰なれハ欲殺
しに被出て山村手村元ハ下命を捨て二所を廻し
下知して排戦せし程子ニ雜討務ともに知く押寄
て討殺けり程子終に本多ハ出場ハ治ひ此者とも
御授羣之迚三子石ハ下ハ子陽米鷹品質ハ治務
本ハ長出右山村ハ古番人國しハ知とも

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13
ガラス使用

木攻ざる前に攻れたるとの御進源き也何る
一し却れ必死を極めたりとも第一五治る事
あるわけして　神君には本家の平均志なり
と君は清軍死に過ぎ何らかいふ事せん本文山村
の述たる利害のことなるし　実に近し
一本村長州大坂の城を退りに見て　時本村長つる
風呂に入り髪を洗ひて　然後たりせ江戸曲輪紅花
の美の湯に浴ひ余念なく小鼓をしらべしとぞ
其後花やかなる討死せられし事也　大将軍

に覧ゆて　濟流させかひ此若武者討死を極め髪に香
をとめなるに月代を刺せざるしと給ふ也しとか
やす時髪を出さき兵を焼し女を江戸にて本京に運
といふ和科の物なりてあるし　老後を見て治ら
出しとぞ
月代を刺らさるしいのなるゆへにや実に
一し
一安藤右京進立行或時屋中にて尾張の使者迄
恐と申すに立行は拙義の方へ見せしとなるを出せ

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13
ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

忠心なるゝハ元合浴りんハなきそまし
かし

一紀州殿也城内乱日にて下馬も込合ハ時在所より
そしめて御戸法詢しなる若輩もの始て
供番ハ御ハ退出の若尾張殿と御同道にて小り
かひたがひに宗旨ハ宗かひ居るかうの紀州の若
おしろこゝ尾張殿のともの内にましうかく
と方へ供いたしハ御ハ尾張殿御屋敷の辺にて
見しらぬものよく始めらきゝ其もこゝ人をこれ

ちこゝ為りとおとろきそれハ紀州原為へ帰りて遍
塞しハ御之を治弱にて行越山城守安藤帯刀た
ひめんへ若山城守庄具にハ申しハ御ハ紀州にハ大きな
ふる庫ものゝハ其人をこれちがへ一日尾張殿の供をし
て御ふきしりハ御そよく云はめされといひハれハ
山城守の洞も頼らぬに帯刀申ハ御ハ紀州の者ハ只其
人たゝけにて尾張殿の供詢したるを尾張のも
のハ皆こたる事にてしらぬものゝ供の中へまじ
つゝるを一日ひとつゝ連出るうつけともと能く云

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13
ガラス使用

何らきよと遊昔を見れば
清よいふうり云ゑなるのいゝ云ゑなくされとも
山城なるのやさ思意なきなるをかし出ぬ者との人
あれハ年ひの海ともなれ事なるへし白湯
勢ひとも場りしられへられも更ぬへし
一々里の城夜討のるす生田集へ伝奇松雪元入道内殿
権之先塩漱芳棲今合し今里の城を夜討ふして歌
ま同を覚んさせんと一同して都合弐千余の人数を
進立て三月六日の夜半にいつまも志めより足て押

書まつ人数千五百ハ城のうしろ城下ゆ海をとらめ五
百人をハ内殿権之先塩漱芳棲高将門具して大手
つ源ま押手焼草をつみ上市火をうちやき立ければ
極火東西へ上る城中大きにおとろき上城下へと
出しけれの歌をハ訪うけして先火を消支度なら
らとしけるによつて矢倉の上台下より水をんこび
よせやしくに打消けり此まきれに城の寝ひり
然る謙なと打うちくへ欠よりける細川又六所湯
本源井下知して実伏せ切ふせ汗水になり命成

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13
ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用

国立国会図書館　工夫双紙 W442-N13

ガラス使用